2022年7月7日発行

プラネタリウム通信

空に散りばめられているようにしか見えなかった星から「絵」が見えてくる。

天井に散らばる恒星を神や人物、動物などを想像して線でつなぎ、絵に描いたのが星座の始まりだといわれています。そして、星座にはいろいろな伝説があります。

夏の夜、海や山に出かけたついでに、満天の星空を見上げてみましょう。

夏の星空は、天の川とともにやってきて、さそり座、はくちょう座、こと座、わし座などが見られます。

★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★

**★今月のテーマ：『夏の夜空に輝くさそり座』**

ギリシャ神話では、オリオンを刺し殺したのはこの「さそり」だといわれています。オリオンも星座になりましたが、さそりを恐れてさそり座と一緒に空に輝くことはありません。さそり座は夏の星座、オリオン座は冬の星座として夜空に輝いています。

S字にカーブしているさそり座は、南の空低く天の川を抱え込むように輝いています。

中国では、さそり座を青龍に見立てS字にからだをくねらせた天の龍を思い描いていたそうです。

日本の瀬戸内海地方の漁師たちは、釣り針を思い描いて「魚釣り星」「鯛釣り星」と呼んでいました。

赤い星アンタレスは、夏の夜、南の空に明るく輝いて見えます。ちょうどさそり座の心臓のように見え、とても印象的です。アンタレスとは「火星の敵」という意味で、古代の人々は、アンタレスを不気味な闇の力を持つ星だと考えていました。

★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★・。・☆・。・★

**★7月のプラネタリウム★**

開催曜日 ：水・金・土・日

開催時間 ：午前10時～／午後2時～（水・金は午後のみ）

定員 ：100名

入館料 ：高校生以上300円　中学生以下150円